

2. 実践で価値をおいていることの意識化

- (7) ライフステージのより早い段階から、健康問題を未然に防ぐことを重視する
- (8) 活動を継続していくためには住民との信頼関係づくりが基本であることを意識する

(事例 2-1)

田中保健師は、生活習慣病予防を担当する係に所属するX町の中堅の保健師である。健康づくりマップの作成と普及、イベント実施による生活習慣病予防の啓発、地域の関係者との連絡協議会の運営に取り組んで2年が経過したところである。X町は糖尿病患者の増加と共に、境界域にある住民が増加している。予防活動は地道に進めることが大事であるとは言え、このままこれらの取り組みをこの先も3年、4年と続けることで、糖尿病予防に貢献できるのか疑問がわいてきた。母子保健は妊娠出産から学童期へと体系的に事業が組まれているのに対して、成人層を対象とした事業は、各事業を単独で実施しており関連づけが弱いと田中保健師は思っていた。事業を体系的に捉えることが必要ではないかと強く思うようになった。

【設問 2-1】 田中保健師の立場から

あなたは、上記の2項目の中でどの項目を意識して、どのような取り組みをしますか？

～回答例：項目（7）を意識して～

技術項目（7）「ライフステージのより早い段階から、健康問題を未然に防ぐことを重視する」を、今の自分の疑問に関連づけて考えた。生活習慣病予防は、成人層に対して働きかけることも大事であるが、もっと前の年代層から、つまりライフステージのより早い段階から継続的に繰り返し働きかけることが大事であり、母子保健の事業と成人保健の事業の連動を考えられないかという思いを強く持つようになった。

（事例 2－2）

田中保健師は、生活習慣病予防においては、ライフステージのより早い段階から継続的に繰り返し働きかけることが大事ではないか、という思いを、同じ係の同僚の保健師に話し、どう思うか意見を聞いた。同僚保健師からは、田中保健師の言うことはもっともであるが、ライフステージのより早い段階からの働きかけということになると、母子保健を担当する係の保健師とも連携して、一緒に取り組む必要が生じる。日々多忙な状況の中で、新しい提案を母子保健の担当者が受け入れてくれるかどうか分からないし、かなり難しいのではないか、という意見が返ってきた。

【設問 2-2】同僚保健師の立場から

あなたは、同僚保健師として、田中保健師から意見を求められたときに、上記の2項目のどの項目を意識して、どのように考えることができそうですか？そして田中保健師にどのような意見を言いますか？

～回答例：項目（7）を意識して～

同僚保健師は、日々多忙な状況の中で、新しい提案を母子保健の担当者が受け入れてくれるかどうか分からないし、かなり難しいのではないかと、田中保健師に対して一度回答したが、“保健師が担う予防活動とは何か”、“保健師でなければ担えない予防活動とは何か”について、技術項目（7）「**ライフステージのより早い段階から、健康問題を未然に防ぐことを重視する**」に照らして、もう一度考えた。

妊娠出産から老年期に至るまでのすべてのライフステージに継続的に繰り返し関わるのができるのが保健師である。そのような立場にあるからこそ、生活習慣の形成途上にあるライフステージのより早い段階から関わることによって、健康問題を未然に防ぐことができる。現在、業務を効率的に進めるために、係や担当制で業務を進めているが、それらの業務は、地域住民一人ひとりのライフステージを繋げてみたときに、連続性のあるものとして活かされてこそ、予防活動としての働きを提供できると思いに至った。

その後、同僚保健師は田中保健師に、生活習慣病予防に関して、母子保健と成人層の事業に連続性のある働きかけを入れ込むことができないか、上司さらに課内会議で提案してみてはどうか、と意見を伝えた。

（事例 2－3）

田中保健師の上司（保健師）は、母子保健、生活習慣病予防の各係を総括する保健部門の課長である。X町では糖尿病罹患者の増加、予備群の増加が続いている状況が、町の健康づくり協議会でも取り上げられ、対策を強化するよう、保健部門に要請があった。田中保健師の上司は、生活習慣病予防の係でリーダーを務める田中保健師を呼んで、取り組みの現状と課題、今後の構想について意見を尋ねた。田中保健師は、係でも検討していた内容を、直接課長に話せるチャンスであると捉え、「健康問題が顕在化している成人層に働きかけるだけでなく、より早いライフステージの段階から、予防につながる知識・技術を学び、行動化・習慣化へと導く機会を、生涯を通じて持続的に用意することがさらにもっと必要ではないか」「母子保健は住民と継続的に接点の持てる事業が系統的に組み立てられているので、母子保健事業の機会を活用した働きかけができないか、と考えたところである。母子保健の担当者がこの提案に合意して連携できるのが最も大きな悩みである」と課長へ伝えた。

【設問 2－3】 上司の立場から

田中保健師の上司は、田中保健師の答えに対して、上記 2 項目のどの項目を意識して、どのように田中保健師に返答しますか？

～回答例：項目（8）を意識して～

ライフステージのより早い段階から働きかける取り組みを、母子保健から成人層の事業に繋げて系統的につくったとしても、その仕組みを例えば保健師の異動があったり担当者が変わったりしても、持続させていくことこそが大事になると田中保健師の上司は考えた。

技術項目（8）「活動を継続していくためには住民との信頼関係づくりが基本であることを意識する」を見たときに、生活習慣病予防に関する相談や学習の仕組みを、自分の健康や生活に活かすのは住民自身であり、住民が生活習慣病予防について、ライフステージの生涯を通じて、家庭でも、学校でも、会社でも、地域でも、相談したり学習したりできる仕組みを体験しながら理解し意義を感じて活用できるようにしていくことが目指すべき姿・目標になるのではないかと田中保健師に伝えた。さらに、住民との信頼関係づくりについて具体案を提示した。

田中保健師からは、「母子保健担当者と連携できるのか、が悩みであったが、問題の本質はそこではなく、住民が相談や学習の仕組みを生涯を通じてその時々体験しながら理解し意義を感じて実践できるようにしていくことの大切さが、母子保健担当者と共有すべき点であったのですね。取り組みそうな気持ちになってきました」とうれしそうな返事が返ってきた。